

がんばれ!

なみえ

まちの話題

皆さまの身の回りにある楽しい話題、
いっふう変わった話題などの情報を募集しています。

復興推進課情報統計係
TEL 0243(62)4731

アメリカなどの大学生の皆さんが 安達仮設住宅を訪れました



「福島アンバサダープログラム」で米中独豪の6大学から来日した大学生約40名と、福島大学ほか日本の大学から参加している学生ボランティアの皆さんが8月20日、二本松市内の安達仮設住宅を訪れました。学生の皆さんは、住民の皆さんと一緒に作った焼きそばを食べながら、ジェスチャーを交えていろいろな話題に花を咲かせていました。

このアンバサダープログラムとは、「福島を世界に発信する友好大使(アンバサダー)」を育成する目的で福島大学が実施しているものです。「復興過程における諸課題について問題意識を共有したうえ、被災地でのボランティア活動や、有識者との意見懇談会、ホームステイを通して、多角的に福島の今をとらえる体験を行います」(福大プレスリリースより)。

7回目となる今回は、特に理系の学生が多く、「福島の現状を客観的に理解し、科学的視点から発信すること」等が期待されます。

南津島伝統の「念仏供養」

南津島地区に五百年前から伝わる「念仏供養」が8月30日、福島市内に避難している真言宗豊山派・長安寺に、南津島地区の皆さん約30名が集まって行われました。

「念仏供養」は324個の大きな玉をつなげた長さ10メートルを超える数珠を手に取り、太鼓の音に合わせて念仏を唱えながら、輪になって一人ひとり祈りを込めて回していきます。

今回は、「東日本大震災復興 物故者各霊追悼法要 並びに念仏供養会」として、震災後に亡くなった同地区住民の冥福と、震災からの復興の願いを込めて、震災後初めて開催されました。

主催した南津島郷土芸術保存会会長の三瓶専次郎さんは、「この地区にだけ伝わる“念仏供養”を震災後は開催できずにきました。今年は何かしたい、という思いで長安寺の横山住職と話し合いを重ねて今日開催することができました。念仏の数珠のようにまるくなって手を取り合い、お互い助け合って生きていく。天国でどうか見守っててください」と挨拶しました。

また念仏供養終了後は、参加者全員で昼食を囲みながら久しぶりに会ったご近所さんとの会話を楽しみ、とても和やかな時間を過ごしていました。



ローソン浪江町役場前店 再開1周年

町内で再開している事業者で唯一の小売店である「ローソン浪江町役場前店」が8月27日、再開1周年を迎えました。この日は相馬双葉漁業協同組合請戸女性部・青壮年部によるつぶごはんの試食会、町内で栽培されたジャガイモの配布、町の様子をまとめたパネル展示などが行われました。当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、多くの方がお越しくださいました。



※10月1日から営業時間を変更します。
7時～18時(定休日:日曜日)

ありがとう ございました

みなさまから義援金等の支援を
お届けいただきました。



8月24日、大和ハウス工業株式会社様
(けん引式車いす補助装置「JINRIKI QUICK」1台)